

2020 年度文部科学省・日本人学校教育環境整備事業

「ICT を活用した教育体制構築に関する実証事業」

講評

評価者： 岸 磨貴子

明治大学国際日本学部 准教授

学校名

アムステルダム日本人学校

キーワード

授業デザイン、保護者との連携、地域特性を活かした取組、日本国内との連携

講評

アムステルダム日本人学校の報告書は、特に次の3点において優れていると判断し、共有することになりました。

第一に、各教科での ICT 活用の工夫と具体事例がわかりやすく示されていることです。在外教育機関に限らず、各教科における ICT 活用の実践事例は国内外の学校において参考になります。まず、教科で共通する指導方法として、板書、ノート指導、話し合い活動における ICT 活用の工夫や具体事例が示されています。次に、小学年・中学年・高学年とそれぞれの段階において、教科ごとに取り組みの工夫と具体事例が示されています。子どもの発達段階によって ICT をどこまで利用できるのかについて、段階的にどのように活用しているのかについて関心を持っている教員も多くいると思います。科目の特徴および科目間の共通点を抑え、また、授業における子どもの学びの様子を定性的にも定量的にもデータを示して報告されており、読み手に大変参考になります。

第二に、オンライン授業を始める上での留意点が大変参考になります。新型コロナウイルス感染防止の観点から多くの学校がオンラインでの授業をはじめましたが、その規模や進度はさまざまです。これから本格的にオンライン授業を開始する学校や教員にとって、アムステルダム日本人学校が示す「オンライン授業を開始するまでの確認とオンライン授業づくりのルールづくり」では、使用するアプリの選定、保護者からの質問やその対応と連携、教職員および児童が ICT に慣れるための取り組みなどについて詳しく示されており、貴重な知見となるでしょう。

最後に、在学教育機関だからこそその授業実践も参考になります。紹介されているのは、小学部で実施した日本とオランダの児童間のクリスマスカードの交換、中学部では現地の学校への日本文化紹介映像制作の実践があります。前者は、季節のイベントをとりあげ身近なテーマ（クリスマス）の具体物（クリスマスカード）を学習リソースとして、内容や表現を比較しながら文化を学びあうものです。後者は、日本から離れているからこそ意識できる日本文化を生徒の言葉で表現していく活動です。在外教育施設という世界を舞台とした教育の現場での教育実践を日本の教員または他国の在外教育機関に紹介されています。

その他にも、報告書のまとめかたなど優れた点が多くありましたが、特に参考になる点として上記の3つを紹介しました。